

## 前書き

文化庁では、今後の国語施策の改善に資するため、明治以降、今日に至るまでに発表された国語施策の改善に関する各種の案及び実施された施策並びにそれらに関する論評等を計画的に収集整理し、「国語施策沿革資料」として、まとめることにしている。

本集は、その第二集として、「現代かなづかい」制定前の各種の仮名遣い案・施策に関する論評等の代表的なものを収集し、簡単な解説を加えたものである。本集の作成に当たり、御協力くださった方々に、心から感謝申し上げます。

昭和五十六年三月

文化庁文化部長

塩津有彦

国語施策沿革資料作成協力者

(五十音順、敬称略)

(氏名)

(現職)

天沼寧 大妻女子大学教授

井之口有一 京都府立大学女子短期大学名誉教授

阪倉篤義 京都大学教授

志田延義 山梨大学名誉教授

土屋信一 国立国語研究所言語計量研究部第一研究室長

林大 国立国語研究所長

林巨樹 青山学院大学教授

なお、文化庁においては、主として次の者が本書の編集、作成に当たった。

室屋晃 文化部国語課長

上岡国威 文化部国語課課長補佐

安永実 文化部国語課主任国語調査官

山口佳也 文化部国語課国語調査官

## 凡 例

一 本資料集は、明治以降「現代かなづかい」制定前の仮名遣い案・施策に関して発表された論評等のうち、代表的なものを収録したものである。

二 付録として、「帝国教育会国字改良部仮名決議」「高等師範学校附属小学校国語科実施方法要領」「国語調査委員会決議事項」及び代表的な「新聞社説」を収録した。

三 各文献は、底本とした資料の原文のまま採録することを原則とした。ただし、

1 漢字は現行の字体に改めた。また、変体仮名も現行の字体に改めた。しかし、必要と認めた場合は、原文の字体をそのまま残した。

2 原文の改行の位置を明らかにしておく必要があると認めた場合は、該当する部分に『』を付して、その位置を示した。

3 明らかに原文の誤植と認められるものは訂正した。

4 振り仮名、傍点の類は、特に必要と思われるもののほかは省略した。

5 新村出「国語問題の根本観念」は、紙幅の関係で、仮名遣い問題と特に関係の深い部分を抄録するにとどめた。

四 参考のために、各文献の前にその文献とその筆者に関する簡単な解説を、また巻末に「仮名遣い問題概説（明治以降「現代かなづかい」制定前）」を添えた。なお、概説文中で触れた文献のうち、「国語施策沿革資料1」「同2」（本資料集）に収録したものについては、その文献名（初出）の右下にそれぞれ①②の符号を付してそのことを示した。